

平成 29 年 3 月 28 日（火）午後 2 時～午後 3 時 30 分

庁舎 3 階 306 会議室

（意見等）

（1）総合事業指定サービス事業の指定状況等について

○現状で基本チェックリスト、窓口確認票を終えられた人はどれくらいいるのか。
→市の窓口では実績がないが、包括支援センターでは、数件程度ある。

2 月中の更新者では、チェックリストを利用した者が約 2 割であり、47 名のうち、10 名がチェックリストを実施し、37 名が認定の更新申請を行った。

○サービス提供体制で、訪問型サービスの緩和型が 5 カ所しかないのかと思った。地域の分布としてはどうなのか。

→各地域包括圏域に約 1 箇所ずつあるような状況である。小杉南圏域だけがない。新湊西圏域で 2、新湊東圏域で 1、小杉・下圏域で 1、大門・大島圏域で 1、高岡で 1 となっている。

○15 事業所あれば、何とか対応できるという見込みなのか。それとも、まだ訪問事業所は何カ所足りないというようなことがあるのか。

→お示しした資料は 4 月の始めからサービスを提供していくため指定の手続きのあった事業所である。5 月からの事業所については、締切日を別に設けているので、もう少し増えていくのではないかと考えている。

○何カ所くらい欲しいというのはあるのか。

→今年 1 年間をもって、要支援認定をされている方が、認定の有効期間が切れられる方から、順次、総合事業にかわっていく。現在実施しているところの約半数が緩和型をしていただき、ほぼ全てが現行型をされるので、ある程度対応はできると思う。

（2）射水市地域支え合いネットワークモデル事業の進捗状況等について

○サロンまで来るのは、皆さん歩いてくるのか。

→送迎もある。利用料金は、100 円としている。市や第 1 層、第 2 層生活支援コーディネーター、地域振興会長も入り、みんなで決めた。

○せっかくこれだけの素晴らしい活動をしておられるので、もっと 27 地区社協に活動を行っているというメッセージを送るということと、資料を送付し、生の姿を見せてあげることが、実感として地域での取り組みのきっかけにできるのではないかと。

→平成 29 年度の取り組みの予定として、組み込んである。色々な会議の様子などについてもビデオなども取り、見える化していきたい。

○福祉のあるまちにするということでは長年努力されている地区なので、こうした活動が出来るのだろうと思うが、地区によっては、社会資源のない地区もある。そうした地区に対しては、もっと意識的に専門家を派遣してでも、事業の必要性をアピールして欲しい。

○七美地区は、アプローチの仕方が上手にやっておられるのではないと思う。役員やメンバーには、やっていこうという人もいれば、そんなの無理という人もいる。主催者側でさえも、意見が分かれているということをよく聞く。それを上手くまとめあげ、参加者へのアプローチの仕方について、ここら辺をみなさん学んでいただきたいなと感じた。

→他のモデル地区についても、見学に行っておられるようである。地域の支え合い体制については、やってくださいというと、やらされ感が強く出てしまうので、地域の方がやりますとだけお願いするよう、いかにもっていけるのか。地域の中にリーダーシップをとっていただけの方がいる地域は進み方が違うと思う。

○皆さんは、何かをしてあげなくてはいけないという思いでおられるかもしれないが、私は自分のために、自分が年をとったときにどういう生活をしたいかということを考えている。自分が健康でいて、住みやすい地域にしたい。何かをしてあげなくてはならないという気持ちがある限り、(事業の実施は)無理ではないかと言っている。誰もが年をとるので、自分のこととして考えると方向が見えるのではないかと思う。他人のためにしているのではなく、自分のためにしている。

○中川委員がおっしゃっておられるような会話が出来るようになるまでが大変である。振興会や地区社協の方達が、義務感だけでやっているとな大変なストレスになる。研修や環境作り、そうした支援をどこかがしていけないと動かないのではないかと思う。福祉の思想をどう持ち上げていくのか、努力のいるところだと思う。

→色々な方法で繰り返し啓発していかなくてはいけないと思う。モデル事業には、七美のような地域や大島のような人口が1万人を超える地域、庄西のようなコンパクトな地域もある。モデル事業に手を挙げていただいた地域の方に発表していただくような機会も作っていかなくてはいけないと想定しており、また、出前講座は今年度50回を超えて説明を行ってきたが、引き続き色々な形でアプローチを継続していく必要があると思う。

○七美地区で行われているような定期的な会合はすごく大事で、地域の人がやる気になるには、みんなで話合うところだと思う。そのように押し上げていくのは、総合事業に関しては、生活支援コーディネーターだと思う。

○いいことばかり言ったが、ここまでするにも、前の地域振興会長に何度もいっても通じないことがあった。会長の気質にもよる。社協イコール民生委員ではないかという時代もあった。

○総合事業については、地域格差があってはいけない。

→地域格差ではなく、地域の課題の違いではないかと思う。優先課題が違うという捉え方をしている。ゆくゆくは全地域に行っていたかなくてはならないので、地道にアプローチを繰り返すしかないと思う。

○このモデル事業は高齢化率の高いところから順番に行っているのか。

→手を挙げていただいたところから行っている。全27地域振興会をまわり、地域振興会及び地区社会福祉協議会の合同説明会を開催し、手を挙げていただいたところ。

○地域によって温度差があるのか。

→住民型のサービスについては、平成29年度から全てで広げなくてはならないわけではなく、国は2025年を目途に地域包括ケアシステムの構築を目指しており、市としては、2021、2年までに全地域に広げられないかと考えている。

年間で、地域包括支援センター圏域ごとに1地域ずつ増やしていけないかと思う。

○第2層の生活支援コーディネーターに支援をしてほしい。

→10月から各包括にコーディネーターが配置されているが、10月に研修会を行い、月に1回連絡会をしている。

課題会議から始める地域が多いが、会議の仕方等についても、市、包括、コーディネーターで、打ち合わせをしながら行っている。課題会議や資源マップの作成についても、各地域で違いが出てきている。

来年度の事業の実施に向けてや次にアプローチをしていく地域についての話し合いをしている。包括も、コーディネーター1人だけに負担がかからないように、包括全体でかかわって、地域にはいっていただいている。市も、少しでもサポートできるようにしたいと思う。

○できるだけ多くの方に関わっていただければ上手くいくと思う。

→認知症をもっと市民に知ってもらおうと松浦さんがやっていたということは、今ではものすごく説得力のある仕事になっている。理屈の世界でとおしてこうと思っても、地域受けがなかなかしない。こういうことをやってよかったというような手法を含めて、1層、2層のコーディネーターが知恵を絞って、活動をしていけるような射水市らしさがあるものが出来ないかと思う。

勉強会でやっても高齢者はなかなか納得できないので、もう一工夫したらどうかと思う。

(3) 一般介護予防事業について（きららか射水100歳体操）

○100歳体操は、口コミで広がった。3箇月を終えて、皆勤賞の人にはティッシュをあげたら、また喜ばれた。本当に成果がある。要支援1、2でもデイサービスに行かなくてもいいと言われる人もいる。

足洗福祉センターで聞いた、サロンで聞いた、老人クラブで聞いた等、口コミで

増えていったので、成果はあると思う。

○100歳体操は、県内の市町村みんなでやっているのか。

→全部ではなく、砺波市、氷見市、今から取り組まれるところでは、魚津市や滑川市がある。

○100歳体操の出前講座は、人数や場所について、どんなところでも大丈夫なのか。

→出前講座については、テレビがあれば大丈夫。テレビが無くても、パソコンを持っていく。椅子があればなおよい。

○シルバー人材センターでは、年に1回定期総会がある。そうした場で、出前講座をしていただくことは可能か。

→はい。

○商工会議所の立場としては、こうしたサービスについてどうこういう立場にはないが、中川委員のお話しについては、大変参考になった。会社経営にも置き換えることが出来ると思うし、まちづくりにおいて、商店街の運営といったことの参考にもなると思う。大変いいお話を聞かせていただいた。

やらされ感では人は動かないと思うので、トップダウンではなく、ボトムアップが大事ではないかと思う。

○介護保険で色々な事業を行っていく場合には、事故があったときには、制度の中で対応ができるが、中川委員の取り組みのなかで、例えば移送の事故が起こったときには、対応については七美地区社会福祉協議会の仕事になってしまうのか、市の保険の補助制度のようなものがあるのか。

→地域の取り組みについては、市が補助金をだして支援をすることになっている。補助金の中で、保険料を支出していただくこともできる。

→地域振興会、地域福祉課と話し合いながら、保険に入ることにした。常に、地域振興会、社協、コーディネーターと話し合いをしている。